

四万十川流域の環境再生に向けた調査に協力

高知銀行（頭取 海治勝彦）は、四万十川漁業協同組合連合会および四万十市が取り組んでいる四万十川流域の環境再生に向けた科学的調査に協力しています。

「日本最後の清流」とも呼ばれている四万十川流域は、鮎・ウナギ等の漁獲量や、青のり・アオサノリの漁業・養殖生産量が減少していますが、漁業資源が失われる要因に関する科学的な調査による情報が少ない状況にあります。こうしたなか、四万十川流域の自然を取り戻して関連する漁業等の振興と環境負荷の低減を図るため、四万十川漁業協同組合連合会と四万十市等が主体となり、四万十川下流域の科学的調査を行い、流域の現状の問題ならびに将来に向けた対策の検討に取り組んでいます。

当行は、こうした活動の趣旨に賛同し、調査に協力しており、会長の森下勝彦が理事長を務める一般財団法人高銀地域経済振興財団もこの活動を支援しています。

当行はこれからも、「地域の持続可能性の向上」と「経済の活性化」に貢献してまいります。

以 上

◇本件に該当する SDGs



よみがえれ、
日本最後の清流

四万十川の 河川環境再生に向けた 調査への資金協力を お願いいたします。

資金協力
募集中

かつて四万十川は、アオノリの一大産地として名を馳せていました。
しかし、現在では当時の面影はなく、
収穫量の減少傾向に歯止めがかからない状況になっています。
四万十川のアオノリの復活を目指し、取り組みを推進していきます。



四万十川水質調査の取り組みについて

背景

四万十川は『最後の清流』と呼ばれて以来、流域にとどまらず高知県内に観光や食材を中心に大きな恵みを与えています。かつては、天然のアユ・ウナギ・川エビ・ゴリなどが豊富で、アオノリとアオサノリも多く獲れていましたが、近年は「かつてのような豊漁に恵まれない環境になった」と聞くことが多くなりました。その中でもアオノリにおいては、生産量が激減しており、流域の漁業者のみならず、地域の飲食店等にも影響を及ぼしかねません。

四万十川が衰退すれば、地域の衰退につながる恐れがあり、これからも四万十川と共に営み続けるには、「豊かな川」であり続けることが求められます。



調査目的

四万十川の豊かな漁業資源がなぜ失われつつあるのか、複合的な要因が考えられます。今回、四万十川流域の漁業資源減少の要因について、専門的な知見で水質調査を行います。調査では、河川環境の状態を科学的指標で客観的に表示すること、その数字の意味を提供すること、そして環境悪化の要因を解明または推定するものです。

効果

「清流」への思いは流域を超え高知全域が一になれば、四万十川から得られる恩恵は持続的な方向に進むことが期待されます。また、「四万十川＝清流」のブランド維持に努めることは、高知県全域の観光や経済振興において大変重要であります。

高知が誇る四万十川を一層“かけがえのない川”にしていきたいと思います。

- 目標金額：350万円
- 募集期間：
令和4年4月1日～令和5年3月31日
- 法人1口：5千円～ 個人1口：1千円～

集まった資金は「四万十川の調査費」や「報告書作成および地元シンポジウム開催」に充当します。

一般社団法人 生態系総合研究所
代表理事 小松 正之

1953年岩手県陸前高田市生まれ。東京財団上席研究員、アジア成長研究所客員教授。FAO水産委員会議長、インド洋マグロ委員会議長、在イタリア日本大使館一等書記官、内閣府規制改革委員会専門委員を歴任。日本経済調査協議会「第二次水産業改革委員」主査、及び一般財団法人鹿島平和研究所「北太平洋海洋生態系と海洋秩序・外交安全保障体制に対する研究会」主査を務める。

主な著書



後援：四万十市、高知銀行、一般財団法人高銀地域経済振興財団

調査に賛同
いただける方は
こちらへ

お振込口座番号 高知銀行中村支店 普通 3063407

四万十川漁業協同組合連合会
高知県四万十市不破1778-2 [電話]0880-35-4813